地域連携推進会議議事録

１．　開催場所　ときわの家

２．　開催日時　令和7年2月25日（火）午前10時から午前11時15分

３．　出席者　ご利用者　　　　　　　　　　　　　　様　1名

　　　　　　　ご利用者家族　　　　　　　　　　　　様　1名

　　　　　　　地域の関係者　　　　　　　　　　　　様　1名

　　　　　　　福祉に知見のある者又は経営に知見のある者

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　様　1名

　　　　　　　施設等所在地の市町村担当者等

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　様　1名

　　　　　　　ときわの家　Ａ

　　　　　　　　　　　　　Ｂ

　　　　　　　　　　　　　Ｃ

　　　　　　　　　　　　　Ｄ

　　　　　　　　　　　　　Ｅ

４.　議事の経過と要領

〔Ｅ〕　本日の会の流れは、スクリーンのとおり　　１　挨拶　２　自己紹介　３　施設紹介

1. ときわの家について　②利用者について　③職員体制

４　施設見学　５　質疑応答　である。

１　〔Ａ〕挨拶　一昨年から色々、利用者虐待、不正請求の件で新聞報道がありご迷惑をかけた。深くお詫びする。地域連携推進会議は、来年度から義務化されるが、市役所の指導もあり、今年度から開催することとした。会の皆さんに施設見学も行っていただき、意見をいただいて、良い施設になれば良い。利用者が過ごしやすい環境の中で生活するのが一番大事。26年目になるが、一番いい施設だと自負していたが、利用者虐待、不正請求は残念である。今後これをばねに、また鹿児島で一番いい施設になるよう努力していく。施設長は降りたが理事長はやっているので、いろいろなご意見を受けて、市役所の指導も受けながら進んでいきたいので、今日の皆様は、忌憚のない意見をいただけるようお願いしたい。

理事会のメンバーも一新しようと進めているところである。

２　自己紹介　省略

３　施設紹介

1. ときわの家について

〔Ｅ〕から、ときわの家の権利擁護等について、説明をした。一昨年、令和5年11月にあった鹿児島市の指導監査を端緒に、ご利用者への虐待が認定され、人員配置の不正請求も発覚した。ご利用者、ご家族、地域の皆様、行政機関へは大変ご迷惑をおかけした。深くお詫び申し上げる。令和６年8月19日付で鹿児島市長から行政処分「指定の一部の効力を停止する通知書」があった。ときわの家では、新規利用者の受入停止1年　報酬支払額の7割への制限6月が処分内容であった。八重山会では、令和6年9月18日付で改善計画書を提出し、修正の後、令和6年10月25日付で受理された、本日の資料は、令和7年1月21日に鹿児島市障害福祉課のモニタリングがあったときの改善計画状況報告書である。改善済の項目は、省略した。

改善項目（４）について、令和6年11月18日開催の職員会議において、報告･連絡･相談体制の説明をした。また、人事異動を毎年4月に定期的に行う予定である。職員の虐待セルフチェックシートを令和6年12月8日に理事会に、12月20日に評議員会へ報告した。

（５）について、障害者虐待防止研修を令和6年9月と10月に行った。法人外の研修については、中堅職員研修会に1名、強度行動障害基礎研修4名、九州山口四国自閉症施設協議会研修会４名参加した。

（６）について、施設長及び副施設長は、午前午後施設内を巡回し、職員に対する助言指導をきめ細やかに行っている。

（７）について、今日開催している会議が地域連携推進会議である。この後、施設内を見学していただき、何でもいいので、質問、助言をいただければ助かる。

（８）について、理事、評議員の研修会は、令和6年12月20日評議員会の前に開催した。

②ときわの家利用者、③職員体制について、〔Ｃ〕が説明した。

　ときわの家では、平成12年1月1日に開所し、今年で26年目になる障害者支援施設である。現在、52名が入所している。ときわの家は、主として自閉症者のための専門的な施設である。基本理念にあるようにご利用者に安心安全で質の高いサービスを提供し、より良い環境のもとで利用者主体の支援を行っている。何をおいても、まずご利用者を一番に考えて、その他のものは全てその次であることを前提としている。また、基本理念を実現するために、基本方針となる6項目がある。具体的に、歩行を取り入れることは、開所当初から続けている。ご利用者が座ったままであるとストレスが溜まってしまうので,発散させることと、山の中なので森林浴が心の安定に良い。体を使うので、よく食べ、よく眠る、排泄も良くなるためである。

口腔ケアについては、毎食後必ず仕上げ磨きをしている。利用者は、体調を訴えることができる方がほとんどいないので、まずは虫歯を作らないために仕上げ磨きを行っている。ご利用者にとって、ときわの家は「家」なので、快適な生活環境の維持に努めることとした。

　ときわの家のサービスは、日中が生活介護、夜間は施設入所支援の２つのサービスを行っている。併設して、定員10名の短期入所サービスを行っている。現在1日平均6名である。1日の流れは、6時30分起床、8時15分朝食、10時から日中活動、12時昼食、13時30分から日中活動、15時30分から毎日入浴、17時45分から夕食、21時消灯となっている。1年間の行事は、表のとおり。

利用者は、現在23歳から85歳までの方が利用されており、平均年齢は50歳、平均利用期間は20年5か月であり、約6割の方が開所からの入所である。障害支援区分と療育手帳について、重度の方が多数入所されている。利用者の障害について、自閉症の方が6割程度である。

　スマイル班は、自閉症者を中心とした班、午前中は箸入れ作業、自立課題を行い、午後から、約3㎞位散歩に行っている。ほのぼの班は、利用者の中では高齢の方が活動してる。軽い運動だったり、座ってできる体操を行い、近くを散歩している。青空班は、花と野菜の栽培を行っている。鶏の管理と段ボールの組み込み委託作業も行っている。

　職員体制について、37名の職員が直接支援に当たっている。入所施設なので、５交代勤務を行っている。平日は１６名、週末は１４名前後で支援に当たっている。

４　施設見学

　〔Ｃ〕の案内で、構成員は、玄関ホールから反時計回りで本館、作業棟を見学された。

５　質疑応答

　〔鹿児島市職員〕　主な行事の中で、４月と９月にワックスかけ外出があるが、１日、利用者は、外に出るということか。

〔Ｃ〕　業者が、９時から15時くらいまでワックスかけ作業をするので、9時くらいから15時くらいまで、利用者は外出する。

〔鹿児島市職員〕　皆さんということか。

〔Ｃ〕　そうです。

〔鹿児島市職員〕　全利用者ですか、大変ではないか。

〔Ｃ〕　昔は、遠くまで出かけていた。今は、高齢者の方は郡山支所隣の公共施設で過ごす。

〔鹿児島市職員〕　利用者さんは、外出を楽しみにしているのか。

〔Ａ〕　外出を楽しみにしている方と、全くできない方といる。長時間施設へ戻れないと嫌がる方もいる。

〔福祉に知見がある者〕　スマイル班は自閉症の方が多い。ほのぼの班は高齢者が多い。青空班はどういう障害を持った方がおられるか。

〔Ｃ〕　利用者数が少なくなった。男性が3名、知的障害の方、自閉症の方、旧用語の接枝分裂病（知的障害の人が統合失調症になった）の方である。

〔福祉の知見がある者〕　なかなか高齢者の介護とは全然違う。まだイメージが付きにくいが大変なんだと感じる。鶏舎の管理とか野菜の栽培は、自発的にされるのか、支援員と一緒に行うのか。

〔C〕　専門的なところは職員が行い、補助的な作業で、たとえば支柱を立てるときに支柱を持っているとか一輪車で運んだりしていることが中心である。〔鹿児島市職員〕　開所から入所している方々が26年経って年齢が上がってきていると思う。昔に比べて、障害への対応とプラスして、介護への対応が出てきているのか。

〔Ｃ〕　開所当時と比べると、年配の方は移動が困難な方がおられ、必ず付き添いをしないといけない方が増えてきている。介護対応は出てきている。　自閉症の方は25年経っても、こだわり行動は軽減されたという感覚は余り無い。

〔Ａ〕　地域の方がいらっしゃる。ご利用者家族は、自閉症親の会で、私の次の次の会長だった方。ここまでに至るまでの経過はかなりの紆余曲折はあった。もちろん国分の方に施設があり、兄弟が運営をしている。ここも県の認可を受けて作ったけれど、（国分の施設の）指導、支援のあり方に疑問があり、県から直接「Ａさん自分で作らんや」と話が来て、土地探しが始まって、役場の方々が中心となって、ここを見つけてくれた。やはり地域としてはこんな障害施設ができると困るということがあった。そのときに、最初作った国分の施設を見学に行ってもらった。心配はないということを確認してもらって施設を作ることができた。なぜ「ときわの家」としたかについて、自分の「家」と思ってもらう。うちの娘も家でご飯を食べても泊まることはなくなり、施設に帰る。やっぱり「家」なんだということを認識していただく。家だから、自分の家のような環境で支援してくれることを願っている。しかし、労働条件が厳しくなり、職員は倍くらいに増えたが、なかなかその辺が厳しくなっている。今後は私はもうできないので、職員に託さないといけないと思っている。食事は最高に良いと思っている。ときわの家も第二ときわの家も食事は、直営でやっているから。利用者には、食べることと遊ぶことが大事と考えている。

〔ご利用者家族〕　私もＡさんが言われたとおりときわの家を家と思っている。毎週帰宅をしている。自宅へも喜んで出るが、帰園するときもささっと帰園しているのを見ると、ときわの家が家なんだと感じる。そんなに急いで帰園すると寂しい思いもする。自分の家がこっちになっていると感じる。食事も非常に楽しみしているため、早く帰ろうと夕食の食事に間に合うように帰園している。ときわの家が最高のところだと思っている。

〔鹿児島市職員〕　親亡き後が気にかかることと思っている。〔ご利用者家族〕は親として安心しておられるか。

〔ご利用者家族〕　親として寂しい思いはあるが、家ということで、私としても安心している。

〔鹿児島市職員〕　親亡き後として、〔A〕も安心しているのは同じ考えか。

〔Ａ〕　一人っ子なので、皆さん（職員）に託すことはわかっている。県内でも重度の施設であり、うちの子も重度である。重度の利用者が、親の会もあって集まってきた。その方々はほかの施設で生活できるかわからない。自閉症の重度は特別である。他害があったり。困った方がまだいらっしゃる。定員の関係で、入所できない。そういう方が多数おられる。入所されている利用者の親が安心している現状はある。

〔地域の関係者〕　地域としても、利用者と職員と打ち解けていると思っている。散歩途中で会ったとき、名前を呼びあって挨拶している。

〔E〕　初回なので、説明と見学を行ったが、今後は、何か月ごとに訪問していただくのが良いのか。

〔鹿児島市職員〕　手引きを見ていただければ良いが、訪問と会議は分けたほうが良いとの趣旨で書いてある。訪問は制限があるわけではないので、月に1回でも年に1回でも良い。年1回以上訪問して、別日に集まって会議をするのが理想的ではある。

〔Ｅ〕　訪問と会議は別日に行うようにする。

〔鹿児島市職員〕　悪い言い方になるかもしれないが、4人の方が違う日に違う時間、季節に見たときに、より外部の目で施設を見て、運営の仕方を見た上でおやっと思ったことを解決していく。それがより質の向上につなげていけばよいという考え方である。訪問と会議が同一日だが今年度は努力義務であるので、来年度考えていただくことで良い。

〔Ｅ〕　これで会議は終了する。次回もご協力をよろしくお願いしたい。